

夏本番 だれもがもっている対応力を信じて

梅雨のさなか、との書き出しを慌てて書き直しました。統計開始以来最も早い梅雨明けだそうです。6月29日、5年生が2年ぶりの2泊3日の自然学校に出発しましたが、まるで合わせたようなタイミングに「もっている」と思わずつぶやいてしまいました。行先は、久しぶりの尼崎市立美方高原自然の家です。

6年生も6月7日～8日に愛知県のリトルワールドや三重県の鈴鹿サーキットへ1泊2日の修学旅行に行きました。素晴らしい晴天と2日間での6年生の目を見張る成長ぶりに感動して帰ってきました。集合する度に、バージョンアップするにはどうしたらよいかを考え、「エレガント」に行動する、という名言が飛び出しました。皆が気に入ったので、今も学校内で合い言葉＝愛言葉として使っています。5年生も、自然の中での2泊の集団生活で様々な体験を重ね、成長して帰ってくると思うと楽しみです。

6月18日土曜日には、立花フェスティバルと引き渡し訓練を実施しました。保護者の皆様がモラルを守って参加してください、適切に低学年の子どもの支援もしていただいている様子に、子どもたちが「エレガント」に行動できる素地は各ご家庭にあると納得しました。暑い中ご来校ありがとうございました。

6月21日から水泳も始まりました。今年は幅広い解釈のできるお願いになってしまいましたが、各ご家庭で常識的に判断して準備や対応をしていただいたことで、大変スムーズに水泳ができています。検温表や水泳カード、水筒洗いにお茶の準備と、毎日の用意や対応に心より感謝申し上げます。

苦戦しているのは、屋外でマスクを外すことになかなか慣れないことです。熱中症を出さないよう、養護教諭を中心にWBGTの値を常に気にして、水泳や休み時間の外遊びの可否を日に何度も検討しています。

今回のみだしに対応力という言葉を使ったのはこれらの背景があるからです。マスクを外してよいとなることを誰もが待ち望んでいたはずなのに、今やマスクありきの生活に順応しており、感覚的な違和感や抵抗感等が強くなっている事実と直面しています。子どもたちだけではなく、大人も同様だと思います。そこで考えてみました。日本という国と国民は、四季おりおりの気候の変化から文化や情緒を育んできたと同時に、島国であるがゆえの地震水害などの厳しい自然災害に被災する度に鍛えられ、教訓を重ねながら命を守るために互いに協力し合い、知恵と対応力順応力を磨いてきたのだと思います。これは日本に限らないことですが、コロナ禍から徐々に普通の生活を取り戻そうとしつつある今、人には各々のペースがあることを理解し、温かく認め合うことがとても大切だと思っています。「ピンチはチャンス」と長年唱えてきましたが、このように次から次へと課題が立ちはだかり、それを学び成長する糧にできることを、「生きているって成長できて幸せだ。おかげで生まれる出会いもある」と考えて、進みましょう。

6月23日には、本校でもコミュニティスクールが始まりました。市内で9番目です。教育長を始め、市教委や地域課から11名もご来校いただき、委嘱式が行われました。立花小学校校区に住まわれる人のだれもが、互いにHappyHappyになれるような、コミュニティスクールを目指してまいります。

『子どもは、安心感を与えられて育つと 自分や人を信じるようになる

子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと 生きることは楽しいことだと知る

子どもは、まわりから受け入れられて育つと 世界中が愛であふれていることを知る』

(ドロシー・ローノルト詩 「子は親の鏡」より抜粋)